巻頭言

小　川　弘　子

石川看護研究会が発足してから11年を迎えました。

この会は，北陸の看護のレベルアップに少しでも貢献できればという金川会長の思いに賛同して始められたことですが，この10年間に創立時の期待を実現するためにさまざまな試みを行ってきました。その中の一つであるこの会誌の発行も第６巻を数えることになりました。

今，日本の社会では，看護職の数の不足が取り沙汰されておりますが，私たち会員は，量と共に質の向上も大切であることを切実に望んでまいりました。

すでにアメリカでは，30年前に「自分自身が一歩向上しなければ，アメリカの看護全体での質が上がらないのだ」という，看護婦一人一人の胸に秘められたエネルギーが，今日のアメリカの看護をつくりあげたと，樋口康子先生が『日本の看護の質はこれで良いのか』の中で紹介しています。

この会は，日常の臨床看護の中から研究したものを発表し，看護教育にたづさわっていらっしゃる，高名な方々の講評や講演などをとおして，多くのことを学んでまいりました。

このような，教育と臨床の，コミニュケーションの場に参加することによって，会員一人一人が，アメリカの看護婦たちに続く思いを，深めることができればと願っております。